

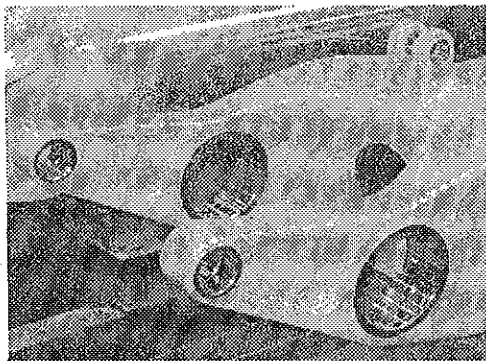
世界に冠たる日本の電機・自動車産業で培った

超 エクセレントテクノロジー

国際核融合実験炉に 特殊銅合金が採用

三芳合金工業(埼玉県三芳町、荻野茂雄社長、049・2588・3388)の特殊銅合金は、2019年に運転開始予定の国際核融合実験炉「ITER」の一部部品として採用が決定した。ITERには、通常の原子炉に

比べ大幅な高耐熱、排熱性が要求される。三芳合金工業が担うのは核融合炉のプラズマ純度を保つためヘリウムなどの不純物を取り出す「ダイバータ」部品の銅合金製冷却管部分。「まだ先の話だが、頂いた信頼には徹底



して応える(荻野社長)と力強い。同社の銅合金に関する

技術ルーツは戦前にまでさかのぼる。「関連会社の大和合金と合わせて銅合金のスペシャリスト(同)と胸を張るゆえんだ。溶解・鑄造から機械加工まで一貫して行えるのが強みだ。抵抗溶接用電極材や消しゴム用樹脂製品向けなど精密鑄造金型メーカーとして国内で高いシエアを持つ。また、航空機が離着陸するさいの要となるランディングギア用摺動部品(写真はアセンブリー)メーカーとしても名高い。近年、有害とされているベリリウムフッ素を實現した、その名も「NC合金」を開発。「高い電導性・熱伝導性を有するベリリウム銅25合金に代替可能」(同)とあって、多方面からの注目を浴びている。